

スタンダードと文学

1 . ヨーロッパ : CEFR

吉島茂・大橋理枝訳・編 (2004) 『外国語教育 外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ参照枠』朝日出版社

(1) 自己評価表 (p.29)

| | |
|----|--|
| B2 | 筆者の視点が出ている現代の問題についての記事や報告が読める。 現代文学の散文は読める。 |
| C1 | 長い複雑な事実に基づくテキストや文学テキストを、文体の違いを認識しながら理解できる。 自分の関連外の分野での専門の記事も長い技術的説明書も理解できる。 |
| C2 | 抽象的で、構造的にも言語的にも複雑な、例えばマニュアルや専門の記事、文学作品のテキストなど、事実上あらゆる形式で書かれた言葉を容易に読むことができる。 |

(2) 言語使用の外的コンテキスト : 能力記述文のカテゴリー (p.49)

| 領域 | 場所 | 機構 | 関係者 | 事物 | イベント | 行為 | テキスト |
|----|----------------------------------|-----|-----|-----|------------------|-------------------------|------------------|
| 私的 | 家庭 : 家、部屋、庭 ホテルなどの一室 田舎、海辺 | (略) | (略) | (略) | ... 休日 ... | 日課... 読書 娯楽 趣味 | ... 小説 ... |

(3) 4.3.5 美的な言語使用 (p.59-60)

文学テキストの創作、購読、上演 : 読んだり、書いたりすること。

各国または地域の文学は、ヨーロッパの文化的遺産に大きな貢献をするものであり、そのために Council of Europe はそれらを「守り、発展させるべき価値ある共通の財産」とみなしている。文学を学ぶことには、多くのより教育的な目的がある。単に芸術的である以上に、知的、道徳的、および情緒的、言語的、文化的目的がある。

2 . 米国 : National Standards

ハドソン遠藤陸子 (2008) 「短編を通して『日本』を教える 5 技能融合・5C 実践の短編講読講座」畑佐由紀子編 『外国語としての日本語教育 多角的視野に基づく試み』くろしお出版

(1) 5 技能 (p.113)

生の短編を「読む」、それについて「話す・聞く」、感想文や短編を「書く」、関連した「文化」

を理解するというように5言語技能の融合が明るい雰囲気のもと、容易且つ自然な形で実現される。

(2) 5Cの実践 (p.114)

コミュニケーション (Communication)

- 1.1 相互形体：受講者間の質疑応答、話の結末予測・意見交換、感想等の話し合い
- 1.2 解釈形体：短編の読み、ビデオの視聴
- 1.3 発表形体：意見・感想の個人発表、自作短編のグループ発表

文化 (Culture)

- 2.1 目標文化の慣行 (短編の内容、構造など) と発想 (人生観、教訓など) の関係を理解
- 2.2 文化的産物 (短編そのもの) と発想の関係を理解

連結 (Connection)

- 3.1 ごく初歩的・表面的ではあるが、日本語の「短編」に関する情報取得
- 3.2 日本語で短編を読むことによるのみ知り得る特有の視点について情報取得

比較 (Comparison)

- 4.1 短編に使われる日本語と母語とを比較
- 4.2 短編に現れる日本文化と自分の文化を比較

コミュニティ (Community)

- 5.1 教室内外で日本語での読書を楽しみ、意見交換
- 5.2 楽しみ・教養のための読書を続けることにより生涯学習者への一歩

3. JF 日本語国際センター：総合日本語シラバス

(1) タスク例

| | | |
|-------------|--------|---|
| 教育 | 上級 (+) | 現代の学校を背景とした小説を、教師の助けを借りて読んで、登場人物の心理を理解することができる |
| 天気・季節・自然・環境 | 超級 | 日本の季節感が表されている文学作品(詩、俳句も含む)の鑑賞をして、感想を述べ合うことができる |
| 異文化 | 上級 (+) | 日本の小説を教師の助けを借りて読んで、登場人物の行動や心理などについて概ね理解することができる |

(2) 八田が今まで「総合日本語」で使った短編小説及びエッセイ

- 2001 夏 5 クラス <健康> 吉本ばなな (2000) 「おやじの味」『体は全部知っている』文藝春秋
- 2002 夏 3 クラス <家族> 木村恵利香 (1998) 「最高の贈り物」日本エッセイスト・クラブ編『最高の贈り物』文藝春秋
- 2002 夏 3 クラス <教育> 星新一 (1972) 「新発明のまくら」『きまぐれロボット』角川文庫